

第79回車座集会意見交換内容（麻生区）

- 1 開催日時 令和8年3月7日（土） 午後2時30分から午後4時12分まで
- 2 場 所 麻生区役所第1会議室
- 3 参加者等 参加者15名、傍聴者約15名 合計30名

<開会>

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから第79回車座集会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます麻生区役所企画課の高木と申します。よろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「麻生区役所を使い倒そう！～公共空間の有効活用～」をテーマに参加者の皆様方と市長で意見交換を行っていただきます。

それでは、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：今日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会：東哲也麻生区長でございます。

区長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、初めに福田市長からご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。

今日は土曜日の午後、大切な時間を、この車座集会に来ていただいて、本当にありがとうございます。

紹介にあったように79回目の車座集会ということで、これまで1つも同じテーマがないんじゃないかなというぐらい、その時々、その地区に合わせたテーマでいろんなことをやっていますが、今回は、公共空間を使おうじゃなくて使い倒そうというような言葉なので、麻生区がどれだけ使ってほしいのかという心意気がこの言葉に出ているんじゃないかなと、上品に使ってねとかじゃない、もう使い倒してほしいというそういう意気込みで、今日はディスカッションで終わるのじゃなくて、確実に何かを、これをやってみよう、そして実際にやろうということまで詰めたなというのが、この前、区長に、せっかく話したんだから、絶対にやろうということまで持っていきたいというふうに思っています。

ぜひ、今日は15人参加していただいて、屋内と屋外でこれを話すと、1人3分だとそれで45分なので、相当スピーディーにテンポよくやっていかないとなかなかそれに追いつかないので、ぜひ進行にご協力いただきたいというふうに思っています。

それでは、有意義な時間となりますように、よろしくお願いいたします。

<参加者紹介>

司会：市長、ありがとうございました。

続きまして、本日、ご参加いただいている皆様をご紹介します。お時間の関係で簡単なお紹介にはなりますが、お名前をお呼びしますので手を挙げていただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、ご紹介いたします。

川崎ワカモノ未来PROJECTに参加されました、高校生の原島佑宙様。

山内結心様。

相模女子大学学芸学部生活デザイン学科教授の桑原茂様。

アートロジ片平代表の中山周治様。

しんゆり交流空間リリオスを運営しております川崎新都心街づくり財団事務局長の斎藤泰子様。

市民紙芝居・あさお代表の吉田静香様。

3人組女性バンド「和楽」として活動されている、高田伸子様。

岡上町内会会長の宮野敏男様。

麻生観光協会事務局長の鈴木昭弘様。

株式会社エリアブレインの吉本大祐様。

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム事務局の春日恭子様。

リリマムあーとぽけっと代表の伊藤まゆみ様。

ふらっと新百合ヶ丘代表の中村ふみよ様。

NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンター所属の大学生、谷平真音様。

服部夏実様。

皆様ありがとうございました。

改めて、本日はよろしく願いいたします。

続きまして、意見交換の前に、麻生区役所企画課長の田島から、「麻生区役所の現状」及び「公共空間の活用事例の紹介」についてご説明させていただきます。

準備いたしますので、しばらくお待ちください。

<川崎市説明（課題の共有、活用事例紹介）>

課長：企画課長の田島と申します。どうぞよろしく願いいたします。

司会：説明はプロジェクターを使用しますので、恐れ入りますが、前方のスクリーンが見えにくい方は、椅子の向きを変えていただくか、見える位置へのご移動をお願いいたします。

課長：今、スライドをご覧いただきたいと思いますが、麻生区役所が1982年にできましたので、44年がこの庁舎も経過しているものとなります。

下の写真をご覧いただきたいと思っておりますが、麻生区役所の広場を活用して行われる主なイベントとなっております。10月には区民まつり、11月は福祉まつり、1月7日には麻生区特有でございますが七草粥の会、3月20日、今年行われますが子育てフェスタなど、広場で利用しているイベントを書かせていただいたものでございます。

市制100周年のときには、これにプラスして幾つかイベントをさせていただきましたが、逆に言いますと、年に何回広場を活用してイベント等を行っているかというのが、本当に数少ないという印象があるかもしれません。

続いて、麻生区役所を利用する場合の、いろいろ書いてありますが、いろいろな決まりがございます。ルールがある中で事前承認とか許可が必要となっております。例えば会議室の利用には、市の事務事業に関連しなきゃいけない、誰か市の職員が出席しないと駄目ですといったような制限があったりします。また、会議室以外の利用に関しましても、営利を主たる目的としたものは許可しないなど、基準が幾つかございます。

その中で、令和6年、初めて麻生区役所では区民アンケートを実施いたしました。その中で驚いたこととか、最近はどういう傾向なんだというのが分かったことがございまして、麻生区役所の利用頻度に

についてお尋ねをしたところ、約70%の方が1年に1回程度、または、ほとんど利用しないと回答しております。これは証明書のコンビニ交付等が増えているだけでなく、区役所は何かの申請の手続に来る以外はほとんど用事がないという方が、本当に多くの方がそのような状況になっているものと考えられます。

また、区民アンケートの中では、新百合ヶ丘駅周辺の公共施設で重点的に取り組んでいただきたいことという形で、またこちらにも質問させていただきました。

その中で、1番目は区役所に入る駐車場の渋滞を何とか緩和してほしいというのがありますが、2番目、3番目のところが今回のトピックでございまして、「気軽に交流・休憩ができるスペースを設置してほしい」が約40%ございます。また、第3位という形で「敷地内の広場の居心地良い空間への環境整備」が約27%の回答がございました。

その中で、昨年度実施をいたしました車座集会では、3番目のところでありますが、中学生とかいろんな方から一息スポットのような空間があると、「つながり」や「交流」が生まれるのではないかとといったようなご意見が寄せられたものでございます。

また、下の地域デザイン会議という形で、昨年度2回実施をいたしました。この公共施設等に関しまして、公共の広場や空間がうまく生かされていないといった指摘や、駅前にあるメリットが全然生かされていない、または、子育て世代にとって魅力のあるまち・住みたくなるまちになるためにはスポットが少ないのではないかと、最後に、誰もが利用しやすく、交流が生まれる、魅力的な施設・空間になるといいといったご意見が寄せられました。

その中で、活用事例を幾つかご紹介したいと思っております。

こちらは川崎市役所で行われておりますが「みんなの川崎祭」と言われているものでございまして、後ろに見えているのは庁舎になりまして、その前の広場と道路等の公共空間を活用いたしまして、このようなイベントを実施いたしました。

また、こちらは、武蔵小杉にあります広場でございまして、こちらはNPO法人と商店街等が管理しております。こういったようなマルシェ等が実施されているものでございます。

また、宮前区役所では、検討委員会という形で立ち上げてまして、イベントとして利活用したい場合は皆さんで話し合ひまして、こういったようなマルシェを実際に行われているものがございます。

また、他都市でございまして、稲城市のほうでは公園を活用したこのようなイベントが実施されているものがございます。

では、一方、麻生区内でどのような事例が、今、行われているかというか、ほとんど今、行われていなかったんですが、昨年度実施したものでございますが、アートセンターの前で、こちらは公共空間の活用という形で、アートセンターの中だけではなくて外の空間を活用いたしまして、いろんな交流、つながりが生まれるようなイベントを実施したものでございます。キッチンカーもこの横のほうには出店をされております。

また、今年度になります。実証実験という形で試しにやらせていただきました。麻生区役所のほうが主催という形で、こちらはデッキを渡ってきた区役所の入り口でございまして、このような場所に一息スポットという形で相模女子大学さんにご協力いただいて、実際に置いてみたところ、いろんな方が座ったり、交流をしていただいた実験結果が得られました。

また、皆様は今日入っていただいたロビーの入り口でございまして、あそこところは区民課の記載台であったりチラシやパンフレットのラックが多数ございますが、それを全部どかすとある程度のステージになりまして、11月29日にも音楽イベントをやらせていただいたものでございます。

また、レストランがあった場所を、今回実証実験という形でソーシャルデザインセンターに書き初め教室を開催していただいたところ、約200人の子供たちが参加してくれたものでございます。

また、市民館のほうでは、学習スペース、自習コーナー、こちらを置いたところ、ほぼ毎日、超満員の状況になってございます。

このような、今、麻生区役所ではまだまだ利活用されていない場所が多数ございます。そういった中で、今回、皆さんと一緒に考えていきたいと思いますが、参考までにA Iに公共施設は誰のものかと質問を投げかけてみたところ、「それはとても本質的で重要なテーマだと思います。公共施設は住民全体のもので、役所は管理者であって利用の主体はあくまでも住民です。」というようなA Iが回答してくれたものがございまして、A Iはすごいなと思っております。

本当に、今回、皆さんに議論いただいた中で一定のルールは必要だと思いますが、住民のための施設になります。職員も皆様と一緒に考えていきたいと思っております。今日はよろしく願いいたします。

<意見交換 公共空間×〇〇のアイデア レストラン跡地などの屋内施設の活用>

司会：田島課長、ありがとうございました。

それでは、市長との意見交換に移りたいと思っております。

ここからの進行は市長が行います。市長、お願いいたします。

市長：改めまして、よろしく願いいたします。

A Iに聞いてみたということですが、当然ですよ、市役所もそうですし区役所もそうですけれども、市民共有の財産ということですので、それを、先ほど、今、プレゼンにあったように、駅前にあるのにうまく活用されていないじゃないかと。あるいは、区役所に来るのが1年に1回、あるいはほとんど利用していない人というのが非常に多いと。もっと駅前の空間をうまく生かして使い倒されたいという今の現状をしっかりと認識した上で、皆さんのお力をお貸しいただけないかという、こういったテーマであります。

今日は屋内と屋外という2つになっていますので、ちょっとよかった、田島さんが少し早めに終わってくれたのか、7分前倒しになっていますのでちょっとだけ時間が生まれています。80分を40分、40分で切っていくというふうな形ですから、まず、1部は屋内空間、先ほどレストランあさおがあったところ、跡地を皆さんは見ていただいたと思いますが、いよいよ、本当に市民利用にできるような、そういった空間ができたということなので、あれをこれからどうしていくということで、少し議論を進めていきたいなというふうに思っています。

それでは、皆さん全員フリップ、屋内のほうのフリップを挙げていただけますでしょうか。

はい、よろしいでしょうか。

それでは、時間が大分限られているので、ここで、あえて屋外と屋内を分けるのだとすれば、屋内のほうですが私は言いたいなとかというほうに、ちょっと絞りたいなという気がするんですけど、どうしても両方言いたいという方はそのまま両方出していただいても構いません。どちらかという屋外かなというふうな方は、そのまま挙げ続けていただけますでしょうか。屋外の方は、第2部のほうでしっかり挙げておいていただくという形にしたいと思っておりますけど、どうでしょうか。

いいですよ。どうしても両方言いたいんだという方は、どうぞ気になさらず。

それでは、今、挙げている方のフリップをこちらに貼り出していただいてもいいですか。

なるべく寄せてもらったほうがいいかなと。皆さんが見やすい感じで。ありがとうございます。

もう1回、こちらで今、閉じていただいた方のフリップを挙げていただいてもいいですか。

カフェ、サードプレイス、世代を超えたコミュニティ、オーケー、オーケー、世代を超えたというのは多世代ありますね。それから放課後、こども食堂もありましたね、もう1つね。じゃあ、いただきます。

こども食堂はここですね。多世代交流はここに置いておきましょうか。

あと、重なるよという方はいらっしゃいますか。

若者の居場所も多世代、ここですね。

どうでしょう。公設民営書店&カフェ、はまらないかな。

そういったときに若い方たちと交流できるような場所があれば、こういう新しいスポットをつくりたいとか、こういうことをやりたいということを直接話が聞けるんじゃないかというふうに考えております。そういった意味でも若い方と多世代、いろんな方の意見を聞けるようなコミュニケーションが取ればいいなというふうに考えております。

市長：ありがとうございます。

お隣は宮野さんですね、皆の会議室はどういうご趣旨でしょうか。

宮野さん：私自身は、麻生区町会連合会傘下の町会・自治会が、会館を持っていないところが結構あるんですね。そういうところの方々が、ほかの町会、自治会の会議室を借りたり、マンションの会議室を借りたりしているんですけど、もっとたやすく借りられるようになったらいいんじゃないかということで、レストラン跡地を狙いました。

市長：なるほど。ありがとうございます。

続いて、どんどん行きましょう。サードプレイスを書いていたのは桑原さん。

桑原さん：もちろん多世代を交流するとか、いろんな団体に使ってもらおうという視点もあると思うんですが、何かこう、例えば若者と老人が話すといいよねと普通にいい話としては聞こえますけど、なかなか接点をフランクにつくるのはすごく難しいと思うんですね。やっぱりそういう施設に訪問するとか、何か大きな企てがないと動かないところがあるので、サードプレイスというのは、もうちょっとそういったことを考えずに、何気に人が集まっていて、自然と多代的な交流が促されていくというようなことが起きていく場所というような意味合いを持たせていると思います。そこには多分、紙芝居であるとか音楽サロンとか、そういった企画というものが時々入ってくるとか、時間帯によって使い方が変わっていったりとかして、いろんな人が自然と集まってこられるようになっていけば、もう少し交流も起きやすいのかなというように考えました。

市長：なるほど。ありがとうございます。

ただスペースがあるというよりも、一ひねり仕掛けが必要だということですね。それにはこういう紙芝居だとか音楽サロンだとかという、そういうものがあると少しフックになって交流が生まれてくるのではないかということですね。

ほかに必要な、多世代の交流をしていくための仕掛け的なものというのは、どんなものがありますかね。実際に、じゃあ例が出ていますので、紙芝居の吉田さん。

それから、その後、高田さんもコメントをもらっていいですか。

吉田さん：市民紙芝居・あさおの吉田と申します。

私自身は、紙芝居と書いているんですけども、実は、その紙芝居をしながら私もやっぱり多世代交流というものを考えての紙芝居、紙芝居を通じて多世代交流ということを考えておまして、そして麻生区内ではやはりサークル活動とか市民活動でそういった文化的な活動をしている方がすごく多いので、そういった方々が利用する空間がちょっと足りなくなっているのではないのかなということを思いまして、そういった文化的なものを通じながら多世代交流できたらいいのかなというように考えております。

市長：ありがとうございます。

じゃあ、高田さんもいいですか。

高田さん：私は和楽というバンドを3人の女性でやっているんですけども、年に2回ほどリリオスでライブをさせていただいていたんですが、3月で閉館ということで今、お先真っ暗で、本当に発表の場がなかなかないんですね。それである程度的人数が入って、お茶も飲みながらすごくいい雰囲気ですけれども、もうそういうところを探してもないんですね。

それで、ほかのグループの方も多分そういう場所を探していらっしゃると思うんですけども、先ほど見せていただいた食堂のあの広さがあったら、すごくいいライブができるんじゃないかと思うんですね。それで、そのライブはもちろん、ほかのグループも多分使いたい方がいっぱいいらっしゃると思いますけど、使わない場合、使えないときに例えばピアノとか譜面台とか、楽譜とかが軽く置いてあって、できれば本当はカフェがいいんですけど、なければ自動販売機か何かでお茶を飲みながら、誰でもその場でいらした方が一緒に歌ってしまうとか、ピアノを弾いてアンサンブルをやっちゃおうとか、そういうちょっとふらっと訪れて、そこで何か音楽ができちゃう、また、やらない方もただ聞いているだけでも楽しめる、歌ってみてもいいし、先ほどの多世代交流というのも、そういう場があればいろんな年代の方がふらっと訪れて、どんなことをやっているのかなと思っていらして、ちょっと年配の方が若い方の歌を聞いてみたりとか、そういういろんな新しい発見もあると思うので、音楽がないときはないときで、いいBGMを流していただいて、何かもう、音楽でくつろげる場所というのをつくっていただけたらいいなと思うんですね。音楽のまちと言われているので、高尚なものでなく、難しいものでなく、本当に皆さんが知っている曲、口ずさめるような興味のない方でも巻き込んで音楽で楽しい場所をつくるということを希望して……。

市長：高田さんの趣旨としては、確認ですけども、演奏の発表の場ではなくて交流の場というふうな感じでいいですか。

高田さん：発表の場も欲しいんです。もちろんライブ。

市長：発表の場が欲しいということですね。

高田さん：予約制になると思うんですけども。

市長：なるほど。

高田さん：それと、使わないときにはそういう空間であつたらいいなと。

市長：オーケー、分かりました。ありがとうございます。

リリオスがなくなって大変だという、その意味で、続いて斎藤さんに話を振ります。どういうふうな仕掛けというのが、やはり多世代交流を活発化していくところだという、そういう仕掛けというのは今までも少しされてきたと思うんですけども。

斎藤さん：多世代交流を目指して8年間やってきたんですけども、リリオスでは3つの部分に分かれています、1つはレンタルスペースとして皆さんに貸し出しているんですね。そうすると、本当に麻生区は、今おっしゃったとおり、いろんなことをされている人がいて、その人に何か教わったり、一緒にしたいという方が集まってくるので、自然とそこに交流が生まれると思うんです。例えば紙芝居の場合でも、紙芝居を

読む人たちは割と年配の方なんです。でも、来る方は若いお母さんたちなので、そこでまた、お話をされたりということもありますし、あとは、カフェがありまして、カフェは新百合周辺だと本当にどこにでもあるようなカフェが多くて、店員さんとお話ができるようなところがないとか、あと、ふらっと入れるところがないということで、1人暮らしのお年寄りから、あと赤ちゃん連れのママもたくさんの方が、本当に若い女性の方もいらっしゃいますし、定年された男性の方もいらっしゃるの、そういう人たちが、カフェがあるとやっぱり来やすいと思うんです。食事とか飲物があると、やっぱりちょっと来ようかなというきっかけになると思います。

それから、もう1箇所は、チラシを置いたり、地域のチラシを置いて、それからリユースコーナーをつかったんですね。そうすると、皆さんが不用品を持ってきてくださって、それをまた、ただで持って帰るといいうのを始めまして、それは1年半ぐらいなんですけれども、すごく好評なんです。それを目当てに来る方もいらっしゃるの、ですから、いろんなきっかけを、もちろん住民の方が生み出していくのもあるし、私たちがちょっとしたアイデアでやってみると、いろんな交流が生まれると思います。

市長：ありがとうございます。

斎藤さん：すみません、長くなりました。

市長：すみません。リリオスがすごい活躍しているので、その部分がこの地域から少しなくなってしまうので、その部分を何か補ってもらいたいなという気持ちもお三方はあるという形ですね。

斎藤さん：できれば、引っ越ししてきたいぐらいなんです。

市長：なかなか、みんな、あの公共空間はすごい、いい意味で狙われていますね。ありがとうございます。

じゃあ、多世代のところは今、ちょっとご紹介いただきました。

中高生の自習室、自習室、放課後の日常的な居場所、これを書いてくださった方、中高生の自習室、原島さん。

ちなみに、こちらは、谷平さんですね。じゃあ次に行きます。

お願いします、原島さん。

原島さん：私は、今高校2年生なんですけど、テスト期間とか普通に勉強するのに、お店とかに行ったらお金もかかっちゃうし、そんなに毎日気軽に行けないから、こういうところで気軽に友達と行ける、勉強できるスペースが欲しいなと思いました。

市長：ありがとうございます。

では、谷平さん。

谷平さん：私も、高校生のときに、カフェは高いし、あとは区役所のここにもあるんですけど、学習コーナーみたいところは、狭くて競争率が高いとか、図書館は19時までなので、もうちょっと夜遅くまで勉強したいなというところがあって、区役所の中で安心できる場所で勉強したいなというふうに思っていて書かせていただきました。

市長：なるほど。ありがとうございます。

はい、こちらは、中村さん。

中村さん：ふらっと新百合ヶ丘の中村です。

昨年の7月から小田急線の栗平駅前でカフェをすることになって、実は、私の試みとして受験生のためにカフェの一部を開いて使っていただくようにしました。私も今、中学3年生の息子がいて、勉強する場所がすごく少ないという話を聞いていたので、少しでも力になればと思って自習室の、すみません、下にも書いたんですけど、実際には放課後の日常の居場所は小学生でもあって、私は6年前からこども食堂をやっているんで、日常でお家に帰る以外にも行ける場所、こども食堂は食べる場所とか人に会う場所とか、先ほどおっしゃったとおり、安心できる場所の1つとして麻生区役所だったら誰もがうれしいんじゃないかなと思って放課後の日常的な居場所を書かせてもらいました。

市長：ありがとうございます。

すごく市長への手紙でも多いです。とにかく自習するスペースをつくってほしいという声。図書館の席を広げてほしいという声も多いです。でも、図書館で本を読みたいわけじゃなくて自習をしたいんですよね。だからそのスペースがやっぱり欲しいという声がたくさんあるので、必ずしも、だから図書館じゃなくてもいいということなんですよね。だから区役所でも学習室みたいなところのスペースを設けているということなんですけれども、ちなみに、原島さんと谷平さんと中村さんにお伺いするんですけど、この自習室は何時から何時まで必要ですか。およそ、ざっくり。原島さん。

原島さん：平日だったら、放課後の3時ぐらいから、大体9時ぐらいまで。

市長：3時から9時。

谷平さん。

谷平さん：同じように思います。でも、休日だったら、割と午前中の時間から、9時とかまで開いていたらうれしいなと思います。

市長：なるほど。吉田さんと高田さんのグループで言うと、何時から何時までですか、使いたいのは、平日だったら。

吉田さん：はい、午前中です。

市長：午前中。高田さんも午前中。

高田さん：夕方まで。

市長：3時ぐらいまで行ける。

高田さん：いつもライブをやっているのは2時から4時ぐらいまで。

市長：宮野さんは何時ぐらいまでですか。

宮野さん：町会、自治会で考えてみますと、勤めている方もいますので、大体、夕方からという形になるかと思えます。

市長：なるほど。分かりました。ありがとうございます。

今、頭の中で整理をしております。

こちらのこども食堂で書いていただいた方、吉本さんともう1人、服部さん、じゃあ、吉本さんのほうからご意見をいただいてもいいですか。

吉本さん：大学のときに、施設の運営とこども食堂に実際に携わっていたものなんですけれども、子供たちの遊び場が共働き世代の増加であったりする中で、家庭外に居場所を求める子供たちが割と増えている中でなんですけれども、公園の減少だったり、遊び方の制限等によって、子供たちが羽を伸ばして遊ぶ場所がなかなかないというところで、こども食堂に行ったら、実際に食事がメインじゃなくて、子供同士が集団で遊べる場というのがあるというのが、非常に子供たちがそれを目的に行っているという現状を目の当たりにしまして、レストラン跡地がレストラン機能を今、失ってしまっているんですけれども、定期的に子供たちが何かしらで放課後とかに遊べる場所があると、新しい麻生区としての居場所づくりに貢献できるんじゃないかなと思ひ、こども食堂と書かせていただきました。

以上です。

市長：ありがとうございます。

それから服部さん、よろしいですか。

服部さん：私は麻生区でこども食堂に携わっているんですけれども、こども食堂の場所であったりが、やはり場所が限られていることだったり、その場所が狭くて、本当はもっとお客さんを受け入れたいけど、受け入れられないだったり、こども食堂自体に対するイメージの、まだ行ったことがないと、やっぱりこども食堂に行きにくいというハードルが高いという問題とかもあるなと思っていて、その中で、先ほど例に挙がっていたレストランの跡地は活用するのにいいなと思っていて、レストランの跡地だと駅から近い立地のアクセスのよさだったり、安心、区が運営しているものだから、安心感であったり、広さも先ほど見させていただいたんですけれども、すごい広い空間があるなと思っているのでそのレストランの跡地が活用できたらいいんじゃないかと思っております。

こども食堂を運営するに当たって、やっぱり場所だけでは実現できないところがあるなと思っているんですけれども、この前、私たちが主催した地域包括ケアシステム講演会の際に、芸人などで子供支援などを行ってくださっている柴俊夫さんにご講演いただいたんですけれども、その際に、こども食堂に支援して下さるということをおっしゃってくださっていて、そういった支援して下さる方であったり、地域の大人のボランティアの方々とかも、もしご支援いただけるなら一緒にこども食堂をできたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

市長：はい、分かりました。ありがとうございます。

こども食堂はキッチンがなくても大丈夫ですか。スペースさえあれば大丈夫ですか。

服部さん：あまり存じ上げていないんですけど、レストランを私が今見た感じだと、レストランだと調理する場所がないのかなと思っていて、そのような調理スペースだったりを寄附というかご支援いただけるような場所であったり、空間があればもっといいのになと思っているので、こういう支援をして下さる方との

連携とかができたらとてもいいなと思っています。

市長：なるほど。分かりました。ありがとうございます。

大分時間が押してきましたので、こちらに行きましようか。

公設民営書店&カフェ、セカンドカフェ、中山さんですかね。

中山さん：皆さんが発表されたような内容、イベントとか場所の利用の仕方をできるような公設民営書店と書いたけれども、公設民営とかあまりこだわらないですけれども、場の雰囲気として本があるということが私は麻生区にあってほしいなど。もちろん、図書館は別に最大公約数的な利用のために、いろんな人が使うために図書館の機能は別にあるとして、ここでは、例えば今の若い人たちが、いろんな電子空間でこんな面白いものがあつた、こんなものがあつたとか、皆さんいろんなことにアクセスする、それは非常にいろんなものにアクセスして楽しいんですけれども、この場所に来て、こんなの、こんな本があるんだと、本の世界は本当に多様で、全世界、全世代に広がりがあつて、その何か、場所の演出としてそういうものがあつて、今月は紙芝居がトピックになっているとか、今週は和太鼓だとか、今回は高校の学習は何だろうみたいな進路選びとか、そういう何かちょっとチョイスした形での面白いなど、本つながりでいろんな知が広がっていくような仕掛け、そういうものがあると場所として魅力的なんじゃないかなと。もちろん、本が置いてあるだけじゃなくて、皆さんが発表されたような、いろんなイベント的なものがそこで随時行われるみたいな、そういうことができたなら楽しいなど。カフェというのを付け足したのは、カフェ的な機能もあると、滞留の時間がうまくマネジメントできるかなというふうに思ったので、カフェも魅力的ですし、高校生が言ったように無料で使えるというところは大切なところだと思うので、飲物代はお金を取ったほうがいいのかね。コンセプトとしては、そこに本があつて、いろんな知的な空間でいろんなものにつながっていくという、そういうことです。

市長：ありがとうございます。

Secondカフェラウンジと。はい、春日さん。

春日さん：Secondカフェと書かせていただいたんですけれども、実はきっかけは、私も自習室が発端でして、息子がいるんですけれども、初めに、外で勉強したいということで、図書館を利用させていただきました。ただ、席数がそこまでないということで、すごい朝早くから並んだりということもあつたり、ほかの方が使われるということで途中で退席したりということがあつて、先ほど紹介にありました学習コーナーも利用させていただいたんですが、そのとき、真冬だったということもありまして、ちょっと寒いと息子が言っていて、最終的に行き着いたのがスターバックスだったんですね。甘い飲物も飲んで、雰囲気も音楽がかかって雰囲気もよくて、勉強していても何も言われな、周りを見たら勉強している人もいれば、本を読んでいる人もいるし、パソコンを開いて勉強をしている人とか仕事をされている人もいるということで、一番じっくりきたのがスターバックスだったので、こういうSecondカフェラウンジという書き方をさせていただいたんですが、結局のところ、自習室であつたり、大人も使える自習室というんですかね、仕事の合間とか、お仕事でもいいんですけれども、そういうのに気軽に使えて居心地がいい場所ということで、Secondカフェラウンジというふうに書かせていただきました。

市長：なるほど。ありがとうございました。

全員しゃべっていただきました。本当にありがとうございます。

グルーピングには分けたんですけど、それぞれやっぱり思いがあるなど。

ただ、これは何というか、貸しスペースにして、一貸しスペースにするのはもったいないなというふうに思いませんか。先ほど桑原さんがおっしゃっていただいたような、仕掛けというものがなくて多世代が交流するということにもならないし、活動というかお互いを知るきっかけにならないというふうなことなので、そこには何らかの仕掛けがいるんじゃないかなと。

ただ、私が決めるわけではありませんけれども、ただ、午前中から夕方にかけての利用者の層と、夕方から夜にかけての利用者層というのは、やはり違うということなので、1つのスペースをタイムシェアすることというふうなのは可能性があるなというのは、皆さんのお話を聞いていると、何かできそうだなというふうに思います。若干、今の設備だと、なかなか制限があって難しいなというふうなのは、キッチンを利用するというふうなのは、これはなかなか、今の、ここだけに限定するとちょっと難しいかなというのは今の状態であります。ただ、カフェというふうにはいかななくても、ポットとかそういうものでお茶を飲めるとかという、そういうものというのはやっぱりあったほうが良いと。引き寄せるというか、というのは何となく、皆さんカフェ、カフェというような形で出てきたんじゃないかなというふうに思いますね。

この自習室的な利用、それも学生さんたちだけじゃなくて、大人でも少し立ち寄って仕事をしたりというふうな形がつかれるような場所というふうなこともあるかと思っています。

どうぞ斎藤さん。マイクが回りますね。

斎藤さん：財団では、地域の本、歴史の本であるとか地域の紹介の本を集めまして、リリオスでしんゆり文庫を設置しているんですね。それをぜひ、置いてほしいんです。それは、図書館だと地下にあるような本なんですけど、貸出しができないんですね。ただ、新百合文庫ですと、どなたでも貸出しができるので、そういう本箱をぜひぜひ、置いてほしいです。

市長：ありがとうございます。

基本的には、先ほどのスライドがありますよね、利用のルールみたいな。こういうふうな面倒くさいルールというふうなのがたくさんあるんだけど、こんなのをやっていたら利用できるわけがないので、こういうものをなるべく外しちゃおうと。というふうなためには、これは市役所、区役所のマンパワーというものをなくしないと、原則として職員が会議に出席していることが必要ですとか、市の職員が常駐するなんていうことがあれば、それは全くもって意味を、市民利用施設としてのあまり価値を生み出さないというか、ただ、市の事業を増やしているだけということになりますので、そういう意味ではどうやって運営自体も市民の中でやっていくかということがすごく大事なことだと思います。

ですから、そういう意味で、例えば斎藤さんが今、本の貸出しみたいなものがあつたらいいよねというふうなことでしたけれども、例えばほかの自治体でも、あるいは私たちのイベントなんかでよくやっているのは、自分の好きな本だけでも、愛読書だけでも置いていく、誰かに読んでもらったらうれしいな、自分は誰かのものを借りていくとかというふうな、ある意味自由な本を使った交流ですよ。ただ、それはほとんど人を介さないで、自由な形でやっていくみたいなのは非常にあってもいいかも。中山さんのさっきの話も、本があつたらいいよねというふうなもの、もう少し、いわゆる図書館とは違う形の本の知的な交流というのも、そういう仕掛けはあつていいんじゃないかなというふうに、何となく思いましたね。

桑原さんに、今までの議論を聞いていて、どういうこの仕方ができるか分かりませんが、大学でもこういった取組というのをいろいろやっておられると思うので、住民の立場と学識の立場と。

桑原さん：いずれにしても、これは全部けんかしちゃうものではないなと思っていて、やれるんじゃないかなと思うんですね。あと、キッチンの問題も、今、ケータリングとかそういった形でやっていけるでしょうし、といったことだと思います。

あと、この管理をどうするかというのも、利用者が自分たちで管理していくようなことで、例えば自習室で公開すれば、それはそれで、たくさん遊びに来ちゃって、しゃべっていてうるさくて、この場所の使い方を取り違えているような人が発生したときにどう対応していくかとかというのがあるので、そういった部分も全部関与する人たちが、お互いに自分の時間を割いて管理し合うとか、あるいはイベントをするときは、利用させていただき代わりにこういった部分で私たちはその役目を負いますとか、そういった何かシェアしていくということがやっていくと、何か新しい形態にはなっていくのかなと思いました。

あと、本に関しては、近くにすごくいい事例があるんですけども、玉川学園できんじょうさんという人が自分の家の前に本棚を置いて、きんじょうの本棚というのを始めたら、今、それがまちの中に300個ぐらいあるらしいんですね。もう本当にそれは自由にトレードしていて、本も時々なくなっちゃうんだけど、でもちゃんと帰ってくることもあると。だから、何かそういった、いろんなほかを介在させながらうまく成り立たせていくやり方を工夫してみんなでつくっていくことで、場所の新しい使い方というのは結構見えてきているんじゃないかな、なんて感じがいたしました。

市長：ありがとうございます。

まさに、利用者でもあるけれども、運営をしていく側にもなっていくと、ちょっとずつ自分たちもその中に加わっていくということがとても大事なことだというふうに思います。

どうでしょう。今までのやってきたお話の中で、ここをもう少し足しておきたいとか、伊藤さんはまだ発言されていなかったですか。失礼しました。伊藤さん、どこでしたか。

伊藤さん：若者の居場所で、書かせていただいた。

市長：失礼しました。申し訳ございません。

伊藤さん：とんでもないです。皆さんの貴重な意見を伺えて勉強になって、ありがたいです。

私の言う若者は10代から20代、あと若いママさんも含めたところで考えていました。リリママあーとぼけっとでは、オープンチャットというコミュニティでオンラインで匿名で350人ぐらいがやり取りをしているんですけども、お子さんの悩みとかママ同士の悩みというのがすごいたくさんあったので、昼に多世代で交流する場にぜひママさんも交ぜていただいて、若いママさんの力はすごいポジティブで元気で明るくなるので、そういった力も交ぜていただけたらなと思います。

あと、よく話題になるのが不登校のお子さんがどうしたらいいのかですとか、あとはわくわくが川崎市で全区にあると思うんですけども、わくわくがぱんぱん過ぎて、子供がゆとりを持って楽しめなくて預けるのに不安があるという声もあるので、こども食堂とか、あと多世代とか、あとは若い学生さんとか、20代の会社員さんとかそういった方も巻き込みながら何か楽しくできたらなと思います。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。伊藤さんのイメージだと、時間帯だといつぐらいの話ですか。

伊藤さん：子育てママは午前中ですね。今交流会をやっているんですけども、大体2時、3時くらいまでには終わるのが理想的かなと思います。

市長：なるほど。あまりでもけんかしないですね。さっきの吉田さんのような紙芝居と、それからママさんと子供さんたちを連れてきて相談だとかということも、あんまりけんかしないかなというふうな感じがしますね。ありがとうございます。

あと、1部を5分間ぐらいで終わらせなくちゃいけないんですけども、でも、先ほど言ったとおり、何か確実にやってみようよといったところに最後はつなげたいので、どうでしょう、今の中で言うと、この多世代交流、若者の居場所と自習室みたいなものというふうなものは、もうこの大きなくくりでいきますけど、こういう形でいうと夕方から夜にかけてというふうな形での、あるいは、そんなことはない、午前中でもこういうふうなことはできるということもあります。

そうですね、ここは何かやれそうだなと。だから大きなグルーピングで言うと、こういうところまではずっと全部いけちゃうような気がするんですけど、ただ、これは誰がこれを運営をやっていくかという話が一番大事なところなんですけど、いきなり聞きますけど、自分は運営側でもやれるよという方はこの中にいらっしゃいますか。運営側にも、なんか協議会みたいな住民協議会みたいなものをやった場合には、そういう形でも参加可能だよと。服部さん、谷平さん、麻生ソーシャルデザインセンターという形でありました。斎藤さんも加わるよということですし、何かコメントを、私たちはできるよみたいな。

谷平さん：先ほど、こども食堂のお話をさせていただいたんですけど、こども食堂はキッチンがなくてもケータリングという形でもやることができている、実際に私たちもそのような形で今、麻生区でやっているの、キッチンがなくてもできますというところと、あと、今、こういうのとか、書き初め教室とか、エンディングノート講座とかいろいろやらせていただいているんですけど、こういうのにも中高生、大学生のボランティアが集まってきたりとか、あさおSDCにも大人の方がいるので、いろんなところでボランティアを集めて、こども食堂はやることは可能かなというふうに思います。

市長：ある意味、そのソーシャルデザインセンターで、ほかに手伝うボランティアの方たちもまとめながら、こういう、そこのレストランあさおの活用みたいなことというふうなのを運営面にお手伝いいただくことというのは可能ということですか。

谷平さん：できます。

市長：すばらしい。何か、物すごい、拍手していいですか。

区長、コメントを。

区長：我々はいろいろアイデアはあるんですけど、市長の言うように、運営とか誰が仕切るのかというのがやっぱりすごく気になって、どういう展開になるのかなという、今日、心配にもなっていたんですけど、本当に力強いお言葉をいただいて、大変うれしく思います。よろしくをお願いします。

市長：ありがとうございます。すごく、うれしい。こういう落としどころになるとは想定外だったので、全部責任を押しつけるというわけではないですから、安心して、そういうことではない。でも、本当に、ぜひみんなでこのスペースを、要は限られた人というよりも、区民の皆さんにオープンにといつたときには一定のルールというふうなものが必要になってくると思うので、それを、ルールと一緒にみんなで考えてつくっていきこうと。やりながらどンドンどンドン、こうやって工夫していったら、もっといいものに、スペースになっていくんじゃないかなということ、やりながら変えていくという、そういうスタイルでいいんじゃないですかね。

ですから、最初は、じゃあ自習室をやってみようということだとか、必要な例えばセキュリティーだとかというふうなものについては、これは一定程度支出が必要だと思うので、それは区なりでちゃんと整備していくというふうな、例えばセキュリティーをここで切ったら、もう少し夜が使えるようになるよねとか、カ

メラをこういうふうにつけたら安心だよねとかというふうな話というのは、それはハードの面ですから、それはこちらの行政のほうでやるという形で、少し、これはまた具体化に向けて詰めさせていただければなと思っています。

ぜひ、今日集まっていた方もそうですし、それ以外の方たちも、なるべく多くの人たちを巻き込んで、運営側に、そして自分もつながる側にと両方のサイドをやっていただけると、すごく広がりが出てくるのではないかなというふうに思います。

それでは、すごく大事なところが解決に近づいたということで、第2部のほうに移らせていただきたいと思えます。

<意見交換 公共空間×〇〇のアイデア 区役所前広場などの屋外施設の活用>

市長：引き続いて、第2部、もう1枚のフリップのほうを挙げていただければと思います。

これはすごい、グルーピングが難しそうだな。

どうしますかね。お互いに見合っ、一緒になれるかもよというのを、どうでしょう。

仲よしグループ。

アイスクリーム。食べ物系。

滞在。音楽系、簡易野外ステージ。ダンスも音楽系でいけますか。山内さん、いいですか。音楽ね。

アイスクリームはどうする。アイスクリームは面白そうですね。いいですね。

大きなキャンバス、アート系ですか。アート、いいですね、美術。ポスターパネル。

まちの魅力発信、一番でかそうなテーマですね。じゃあ一番上に置いておきますね。こういう感じですかね。

じゃあ、一番大きなテーマの吉本さんからいきましょうか。まちの魅力発信。

吉本さん：新百合ヶ丘らしさというのが何よりも重要なのかなというふうに思っています、広場に新百合だったり麻生区ならではのお店というのはいっぱいあると思うので、なかなか最近チェーン店ばかりがあふれている世の中ですけれども、新百合ヶ丘にはこういったお店があるんだよと、こういうワークショップがやっているんだよ、こういう芸術があるんだよというのを定期的に発表できる場と言いますか、そういったものが常にあるような形で週替わりに、今回はこれですよみたいな、例えば地域の野菜とかもありますし、そういったものをぐるぐる、毎週毎週何かしら区役所に行けば、まちならではの要素を味わえるような区画というのがあるとすごくいいんじゃないかなというふうな形で書かせていただきました。

以上です。

市長：なるほど。こういう感じかな。

吉本さん：そうですね、どちらかというとイベントとか寄りなのかなというふうには思っています。

市長：はい。なるほど。今、話の流れからVege & Artはどなたでしょうか。はい、中村さん。

中村さん：Vege & Art Fesを10年ぐらい前に、本当に川崎らしいイベントをしたいと思って、実行委員に、農家さんとか、あと子供たちが楽しめるワークショップとか、本当に農家さんが野菜を販売して地域の方にその野菜を使ったものを販売してもらって食べられる。あと、アートなのでダンスもあつたりというものをやっております。今は、王禅寺ふるさと公園のほうで年に1回やらせていただっていて、100周年でも表彰していただきました。ありがとうございます。

なので、もうこのVege & Art Fesは、私の中では麻生区らしいなど。本当にいつも、今もカフェで農家さんの野菜を使わせてもらって表現するほうに回りましたけれど、いかに地域のことを知るのには、多分イベントは花火のようにいろんな方が知れるチャンスなので、ベジフェスのようなイベントが本当に誰もが来るような麻生区役所の空間でできたらすてきだなと思っております。

市長：ありがとうございます。

イベントを書かれた方、服部さん。

服部さん：以前、麻生区役所の区役所前広場で、まちのひろば祭りと100周年記念で拡大版で行ったあさお区民まつりを開催したんですけれども、その際に、ふだんは少し寂し気な、静かな広場がいろんな店舗といますかお店がたくさん集まったり、そのおかげでお客さんがたくさん集まって、すごくにぎやかな空間になっていたなという印象があったので、そのような場所づくりを、今後も引き続きやっていきたいなと思っています。

あと、まちのひろば祭りは市長さんも来ていただいてお写真も撮らせていただいて、そのときの写真を持ってきました。そうですね、このようなイベントを開催するに当たって、ボランティアとかも募集しているんですけれども、その際に、中学生や高校生、大学生も大人の方もいらっしゃったりしたので、そういう人たちの居場所の1つにもなっているんじゃないかなと私は思っているんで、そのような場所に、今後もしていけたらいいんじゃないかなと思っております。

市長：ありがとうございます。

すごい若い人たちが集まっていますものね。

服部さん：そうですね。

市長：どのぐらい人が集まれるんですか。

多摩のSDCもすごい集まっているけど、麻生も大きくなっていますよね。

服部さん：そうですね。

市長：どのぐらい、ざっくり、2、30人、メンバーね。だから結構ね、すごいなと思って、こういう若い人たちが頑張ってくれているのは、すごく、うれしいですね。

続いて、いいですか。吹奏楽の演奏会。どうぞ。

谷平さん：吹奏楽部の演奏会というふうに書かせていただいたんですけれども、私自身がこのようなイベントに参加させていただいたときに、ダンスだったり吹奏楽部だったりとか、地域の子供たちの演奏の場、コンクールじゃなくて発表の場がもっとあったらいいのかなというふうに思っていて、私は今、大学の教育学部に通っていて、川崎市の小学校の先生を目指しているんですけど、母も川崎市で小学校の先生をしていて、子供の居場所というところで、演奏会とか発表会ができるような場があったらいいなというふうに思っております。

市長：いいですね。ありがとうございます。

音楽も流れる皆の広場は、どなたでしょうか。はい、高田さん。

高田さん：いつも場所を取って、とても広い場所ですけれども、ベンチが少ないと思うんですね。ちょっとはありますけれども、何か、その広さが何となくだだっ広い感じで、もうちょっとベンチがあったり座るところがあって、それで植栽もあって広場のような感じになったら、そこで立ち止まってというか座ってゆっくりしようかなという気になれるんじゃないかと思って、そういう空間を望んでいることと、そこで音楽もたまには流れている、ストリートミュージシャンとか何かやりたい人も来て、気楽に演奏できるような場所でもあったら、また座っている方たちも耳を傾けて楽しめるんじゃないかなと思ったりもするんです。

それから昭和音大の生徒さんたちの演奏をまちで聞く機会があまりないので、いつも思うんですけれども、昭和音大ができて、すごくうれしかったんですけれども、あまりそういう生徒さんたちと交流する場面がなくて、ホールとかで立派なところではやると思うんですが、その生徒さんたちも、いわゆるまちの人たちに聞かせる、みんなが知っているような曲を、来て皆さんに楽しんでいただくという場が必要んじゃないかと思うし、私たちもそういう生徒さんたちの演奏も気軽に聞きたいと、そういう場所になってもいいかなという気もしています。

市長：いや、いいですね。本当、そういう昭和音大の学生さんが演奏していたり、中学校の吹奏楽部の人たちが一緒にやっていたりとか、そのためには椅子もいると。

高田さん：そうですね。

市長：椅子はどなたですか。何か、お仲間ですね。本当に。どうぞ、吉田さん。

高田さん：それからもう1ついいですか。

さっき、皆様、子育て中の方とか若い人たちの集まる場所っておっしゃっていましたが、シニアも集まる場所が少ないんですね。それで私たちはシニアバンドなのでいらしてくださる方も同じ年代の方で、今回、ライブがなくなると言ったら、シニアの遊び場がなくなっちゃったとすごく寂しがったんですね。ですので、そういうシニアの場も考えていただけたらうれしいです。公園でもいいんですけど。

市長：なるほど、分かりました。じゃあ、椅子の前にこちらにいきますか。誰もがそこにいてもいいと感じられる広場、どなたでしょう。

高田さん：すみません。

市長：はい。桑原さん、お願いします。

桑原さん：何か、サードプレイスも近い概念なんですけど、例えば先ほどの、カフェに入ったらカフェを管理している人がいるわけですよね。だからお金を払うことで、いる権利を得ているみたいなどころがあります。公園は公園で公共の場なんだろうけど、例えばそこで夜通しそこにいてはいけないとか、そのベンチは、今はここにバーがあって寝られないようになっていて、ホームレスを寝かせないようにするとか、ある意味、どの場所においても、ここは私が本当にいいんだろうかというか、誰かほかの人の視線をすごく意識して私たちはすごく生きていると思うんですね。でも、そうなっていると、自分が住んでいるまちなのに、私のまちと言いつらい、あらゆる世代の人がここは私がいい場所だよと思えるかどうかはすごく大きいことだと思うんです。

椅子も、私はすごく大事な要素だと思っているんですけど、例えばこの中で、多分フランスとかパリとかを旅行された方はいらっしゃると思うんですけど、あそこのパリとかだと、まちの公園の中に絶対緑色の椅子が置いてあるんですよ。それは全部自由に動かせる。自分が好きなのところに持って行って座ると、すごく景色のいいところに持って行って座ると、何か自分もパリジャンになっちゃった気がするみたいな。そういった意味で、何かこの場所に私は長くいていいし、この場所も自分で選んだ場所に行けるというようなところがあるといいと思うんですね。なので、ベンチもある程度数が必要なかもしれませんが、一定のルールに基づいていると、どうしても何か堅苦しさというか、これは私が座ってよくないような椅子に見えてきてしまうとか、何かそういったところがあるので、もうちょっといろんなバリエーションの椅子をたくさん置いておいて、ときにはそれは演奏会の観客席にもなるし、ただ単に1人で利用することもできるし、子育て世代も使えるとか、そういう柔軟性を含んだものとかになってくると、大分変わってくるんじゃないかなと。

市長：すごくいいですね。確かに、もう少し稼働できる椅子というふうなものが幾つもあって、それをもってきてここで座ろうというふうな、そういう感じでいいですね。

桑原さん：実は、ここにも置かせていただいたんですけど、私たちの学生と一緒に考えたのは、植物を動物にするベンチというのをデザインしたんですよ。植物を動くものにする、動物にするんです。それは、長いベンチなんですけど、そのベンチのところに植木が植わっているわけです。植木鉢を載せたベンチ。それに車輪がついていて、一輪車のようにこうやって持ち上げると、どこにでも持っていけると。植物というのは自分で動けないので、日当たりのいいところに連れて行ってあげるよとか、あるいはそれを2つ3つ、つなげていくとたくさんの人で話をしたりできるよと。使わないときはどこかに戻せるよというような形で、気楽に誰もが勝手に動かしてしまうというベンチを造ったりもしていました。

市長：面白いですね。

桑原さん：よかったら、あそこの広場に置いていただくと、結構面白いことができるんじゃないかなと思いますし、そもそも、図書館のところが階段状になっているところ、あれは多分、最初の設計の意図としては、ちゃんとあそこがステージになって、誰もが勝手に演奏会とかをやっているような場所となっていたんだと思うんですけど、やっぱりそれもそういうふう利用がなかなかされないのは、ここをそういう使い方をしていいのかな、私なんかやっているといいのかなというところがあるので、何かもうちょっと仕掛けとして、こういう場所でみんなやっているといいんだよ、好きにやっているといいんだよこれは、というような、何かその仕組みをつくったほうがいいのかもありませんね。

市長：そうですね。ありがとうございます。

すごく難しいルールがあるので、これを乗り越えていこうという形で、今、椅子の話もありましたので、ここを触れておかないといけないから、吉田さん、じゃあ、短めにコメントを、椅子について。

吉田さん：実は、この公共空間ということについて考えるときに、自分の知り合いに、何があったらいいと思うという、地域の人たちに聞いたんですよ。そうしたら多くの方が椅子が欲しいというふうな意見が多くあったので、今回、椅子という形に出させてもらったんですけども、全くないわけではなくて周りのところ、区役所の前にも、何か椅子とかはあるんですけども、要するに数が少ないということと、やはりそういうこともありますし、あとはやっぱり自分の居場所としての椅子と、さっき移動する感じの椅子があって

もいいのかないというふうにも思いましたし、あとは、その椅子があることによって、椅子を置かない空間でイベントとかも楽しめるのではないのかなって、それが特別のイベントではなくて日常的な、何か、その中に関わってくる文化的なイベントということにふだんから触れることができる空間になったらいいなということで椅子ということで提案させていただきました。

市長：ありがとうございます。大事ですね。

じゃあ、ここに行きましょうか。簡易野外ステージ。はい、鈴木さん。

鈴木さん：一応、便宜上、簡易野外ステージと名のつたんですけれども、このスペースに関しては、原則何をやってもいいというふうな形で考えました。というのは、先ほどありましたとおり、ダンスでも結構ですし、高田さんがおっしゃったような音楽だったりとかそういったものもオーケーだと思いますし、果ては、実は映画大学さんには俳優コースというものがあまして、そこで演劇をやっていただいても結構ですと、それからオペラ振興会さんが黒川にあるんですけれども、その方たちに歌ってもらうとか、そういった形で、要はこの地域にある芸術とかアートのことを皆さんに知ってもらう場所という形、それからダンスにしても、ひょっとしたら将来のダンスのチャンピオンの踊っている姿を見たんだよというような感じになってほしいなという意味で、簡易野外ステージというふうに書かせていただきました。

市長：ありがとうございます。いいですね。

溝口の駅前を、最近通られた方はいらっしゃいますか。ペDESTリアンデッキのところに木造のステージができたんです。あれをどうやって運営していくかというのは、これはまた課題の1つにはなっているんですけど、みんな1つのルールをつくって、その中でどんどん回していこうと。溝口も洗足音楽大学があるので、その人たちにも利用していただいたりというふうな形で、みんながダンスパフォーマンスもあれば、吹奏楽もあればというので、うまく、少し回り始めているかなという感じのイメージですかね。でも、駅じゃなく区役所の広場でこういうものができればいいなということですね。ありがとうございます。

ダンスはどなたでしょうか。山内さんかな。はい、山内さん、お願いします。

山内さん：私は幼い頃からチアダンスを習っているんですけど、チアダンスの発表会って、チアダンスを習っているチームが集まった発表会というものしかなかなかなくて、地域で発表をする機会はあまりなかったので、そういう地域で発表できる場があれば地域とつながるきっかけにもなるし、親同士とか子同士とかのつながりが増えるきっかけになると思います。また、さっき、区役所に来る回数が少ないというのがあったと思うんですけど、区役所の前で行うことで区役所をより身近に感じることもできるのではないかと考えています。

市長：ありがとうございます。

やっぱりいろんな文化、芸術分野があるけれども、大会じゃなくて自分たちのものをみんなに見てもらいたいという、そういう舞台があるというのは、かなり需要はあると思いますね。ありがとうございます。チアダンスもそうですね。

大丈夫ですよ、みんな拾えていますか。

アイスクリーム、ごめんなさい。原島さん。来た。楽しそう。

原島さん：私はかわプロで自分のプロジェクトがアイスクリーム×起業で、将来の夢がアイスクリーム屋さんを起業したいというやつをやったんですけど、何か、あんまりほかのところでアイスクリームを売って

みるみたいなどころがないから、それを、自分の将来に少しでも近づけると、アイスを食べてもらって、みんなに幸せになってほしいというのを感じてほしいから、やってみたいと思いました。

市長：なるほど。ありがとうございます。

実は、高津区の、あれは橋公園というところが公園をすごく、比較的大きな公園なんですけど、あそこをきれいにしようということで、常にきれいにし続けるために企業の皆さんと組んでカフェを入れたんです。カフェの収益をもってきれいに、トイレだとかごみだとかというのを管理していくのと同時に、西部公園事務所というのが市の施設としてあったんですけど、そこを民間の方に貸し出ししたら、レンタルキッチンというふうなものを始めたんですね。一定期間キッチンを貸して、そこで物販ができると。だから、例えば私はタコス屋さんをやりたいですとも、店舗を構えるにはちょっとハードルが高いから、ここで試売りを1週間やるというのから、成功したら実際の店舗を自分で借りてみようというようなチャレンジする舞台というふうなのを公園の中につくったんですね。

だから、原島さんの言っているのも、多分、将来のアイスクリーム屋さんをやるときも麻生区役所の広場で試したいよという、ざっくり言うとそういう感じですよ。だから、そういうみんなのチャレンジを応援する場でもあってほしいという、そういうご意見だというふうに受け止めさせていただきました。ありがとうございます。

滞在。はい、伊藤さん、お願いします。

伊藤さん：滞在と書いたんですけれども、テーマが大き過ぎたなと思って。思っていたのは、例えば区役所の周りは公園がなかったりとか、小さいお子さんが来てぐずったときに遊べるようなスペースが何かあったらいいとか、あとはドッグランみたいな簡易的なものがあって、区役所とかにきた人が、わんこを見て癒やされたりする時間があったりとか、小さいお子さんとか動物とかは癒やしにつながるの、そういったのが日常的にある区役所も楽しいかなと思って書きました。

市長：ありがとうございます。

グリーンパーク、はい、春日さん。

春日さん：しんゆりフェスティバル・マルシェというのを年8回させていただいているんですけれども、その中で音楽ステージですとか、いろいろ、去年はビアフェスタですとかやらせていただいたので、公共空間で広い空間があると、つついイベントを考えがちなんですけれども、なので、キッチンカーをいっぱい集めてやってみたいとか、音楽のまちなので野外音楽ステージができたりとか、イベントはいっぱい案が出てきちゃうんですけど、一方でイベントがない日、ないときに活用されないという意味がないのかなと思っていて、イベントは人が集まるので、そのないときに広い空間をと考えたときに、やっぱりグリーンパークというふうに書かせていただいたんですけれども、桑原さん、伊藤さんがおっしゃったように誰でもそこに行ける、誰もがそこで心地いい空間と感じられるということで、海外で、私が行った海外の経験ですと、市外、中心地であっても緑のグリーンパークというのがすごい広いのがあるんですね。そこに、本当にいろんな、お子さんからお年を召した方までいろんな方がいらっちゃって、なぜか人は芝生だと抵抗なく座るのかなというのがある、そのまま座る方もいるし、敷物を敷いて座る方もいるし、やっぱりグリーンは何かすごく人間、人にとって居心地のいいものなんだなというふうに感じていまして、今のコンクリートでそのまま座る方は多分いらっちゃらないと思うんですけど、そこにグリーンが敷かれていたら、恐らく何のちゅうちよもなく座って、座っているのを変な人だなと見る方もいないと思いますし、伊藤さんがおっしゃったみたいに、小さいお子さんはやっぱりころころ転がったりとか、何かそういうふうに外で遊びたい年頃というのは、

いろいろ激しい動きをするんですけども、やっぱり親からすると、新百合ヶ丘駅の付近はごつごつしていて危ないなというのもあって、なかなか遊ばせるところが少ない。公園でも土のところはほとんどで、緑が少ないというのがすごく昔から思っていたので、ぜひ一面グリーンの場所をつくっていただけると、ちょっと変わるのかなと思う。そこがあれば、いろんな人が集まって、人が集まる場所でイベントをすることはすごく簡単だと思うので、そういう意味でグリーンパークと書かせていただきました。

市長：なるほど。いいですね。大分ハードルが高そうだけど。

春日さん：希望です。

市長：気持ちは一緒ですけど、なかなか。でも面白いですね。でも、確かに、本当にこれから僕たちは緑の基本構想は2年前の市制100周年に合わせて、これからもっと緑を、緑の産業というふうなのがもっと高度に調和していくような世界観をとるので、今、取組を始めていて、次のまちづくりで新百合ヶ丘が変わっていくときに合わせて、もっと緑の価値をというふうなのをやっていくというのは、当然、区役所もその一部に入ってくるというふうには思っています。

さて、この2つはアート系なんですけれども、この辺で、大体もう、何か、大体皆さんの言われているのは共通かなと思うんですけど、今、区役所の広場は結構広いんですよね、どのぐらいあるんですか、面積的には。650平米あるということなので、そこには簡易ステージみたいな形であったり、椅子があったり、あるいは、もしかしたら人工芝なのかもしれないしとかと、いろいろそういう可動式なものみたいなことというふうなのがあると、みんなが発表できる場にもなるだろうしと。チャレンジできる場という意味でもいろんな活用の仕方が出てくるんじゃないかなというのが、大体、そうすると、誰もがという。

本当に、椅子の話にこだわって申し訳ないんですけど、実は、去年の車座集会でも、中学生から意見をいただいたときに、中学生がほっと座れる場所が欲しいんだよねというふうに言われて、僕はびっくりして、えって、中高生が座れる場所は本当にそうなんだ。普通、年を取ってくるとちょっと座りたいわとかというふうに思っていたら、いや、友達ととか、あるいは1人でもとかというので、ほっとするちょっと座れるスポットというのがとても欲しいんだと言われてびっくりした感じなんですけど、あれ以降、いろんな人に若い人たちにも意見を聞くんですけど、結構座るところは求められています、全世代的に。ただ、それが常に固定でいいかというところでもないような気がしますという形なので、その辺りは柔軟に私たちも受け止めて、どうするかということを考えていかなきゃいけないというふうに思います。

なので、みんなが発信できれば、ステージ的なものというふうなのがどんなことができるかというのは、これはハード面に関わることなので、少しここは、今日ここで結論が出ることではないので、少しここは持ち帰らせていただきたいというふうに思っています。ただ、何となく、皆さんの共通点というのは捉えられたような気がいたします。

では、もう1つの、大きなキャンパス、そしてポスターパネルを常時設置ということですが、大きなキャンパスは宮野さん。どういうご趣旨でしょうか。

宮野さん：麻生区には、結構芸術系の大学、あるいは高校でもそういう専門にやっている部活等があるというふうに聞いております。たまたま岡上町内会では、真光寺長津田線の橋脚がいたずら書きをされて、それを和光大学の芸術学科の方々をお願いして、これは2020年の作品ですけども。

市長：こちらのほうに、じゃあ来てください。前のほうに、皆さんに見えるように。はい、こちらで見せてください、皆さんに。

宮野さん：まず最初の、桜の絵だけを見せてください。

それは、真光寺長津田線の橋脚のいたずら書きを全部消して、和光大学にお願いして3日間で仕上げてもらったものです。その後、いたずら書きはなくなりました。こういうのを、それほど小さくなくてもいいんですけれども、区役所前の広場に大きなパネルを置いて、そういう芸術的なことを研究している学生さん等に場所を提供して、月1回とかというふうな形で交代させながら描いていただいたらどうか。発表の場ができますということと、訪ねてきた区民の人がその絵を見ながら楽しめるというところで提案させていただきました。

市長：面白いですね。こちらはよろしいですか。

宮野さん：それは、明治大学の建築の学生に造っていただいたものですが、たまたま小学校の盆踊りのときに座る場所を提供してもらおうということで、岡上の丸山で採れた竹を使った椅子と、上に屋根をつけたり、それから右側のほうの写真は、米をつるす稲架掛けというのをやりますけれども、それを模したものをやって、これは移動はできないんですけれども、座る場所を提供するというのでやったものを1つ例として写真を持ってまいりました。

市長：なるほど。面白いですね。こういう地域と大学連携だとかというのが、こういう形で課題解決にもつながって、みんながハッピーになるという、そういう例ですね。これなんかはすごくすてきですね。ちょっと暑さが和らぐような。こういうことをやられているんですか。これは期間限定でやられたということですか。

宮野さん：夏の期間だけです。麻生区には竹が、黒川にしる岡上にしろ、早野にしるいっぱいございますので、その辺の竹を有効利用できるんじゃないかというように思います。

市長：ありがとうございます。これは面白いですね。こういうアートは、実は多摩川の橋脚でも今、やっております、やはり落書きというふうなものをアートに変えてしまおうというので、そうしたらアートになって落書きがなくなったというふうなこともあって、いい、本当にいい事例を地域とともにやっていただいた事例だと思います。ありがとうございます。

こういうようなのを区役所でもやったらどうかということですね。今、実は川崎市役所の入り口の玄関のところに、こういう大きな、もっと大きな台を、高さがこのぐらいの台を置いているんです。そこに川崎市の茶華道協会、お茶とお花の会の皆さんに毎週そこにお花を飾っていただいているんです。流派は一切問わずに、協会員の中で皆さんが回して、毎週、すごい立派になっているんですけど、やはり、自分の作品を見てもらいたいという意識もあるので、非常に市民の訪れる来訪者の皆さんが皆感激して、誰がつくったんだろうと、やっぱり作家の方が毎週変わるというので、そういう舞台を造ることというのはすごく大事なことなのかなというふうに思いますし、アートの世界もそうですよね。大学の中でだと、なかなか見られない部分というのを世に出していくというような形でお互いウィンになっていくというふうな、いい事例をしていただいたと思います。ありがとうございます。

では、こちらのポスターパネル常時設置というのは、中山さん。

中山さん：ポスターパネルというか、アート作品を大きなキャンバスじゃないんだけど、今、皆さんの前にある100プラス2歳のまちというポスターがございますよね。あのぐらいの大きさの想定なんですね。

そういったものを数点、常に市民の目に触れる、今、福田市長が言ったように、生け花作品が閉じられた空間に行かないと見られないというのじゃなくて、通りがかりに見て、おおと思う。

自分は今、アートロジというのを片平川の遊歩道のところでやっているんですけども、それはもう野外なんですね。アートロジのロジというのはオープンスペースという意味で、もちろんお金は取りませんし、なるべく地元の人、あるいはプロの方もやりたいと言えどもどうぞと。プロの方も結構やりたがってやっていただいていたいたり、ご老人の団体とか、子供とか小学生、近くの高校生とかいろんな人のアート作品を2週間ごとにそこで飾っているんですけども、基本は散歩がてらに見ていただく、散歩がてらとか買物、ジョギングがてら、ふと見て、ああと、立ち止まって見ていただく。閉じられた空間にお金を払ったりとか目的をもって見に行くというアートも1つのアートの形だし、1年に1回、あるいはそういうときに役所に来たときに、お、何だこれはという形でアートに触れる、自分なりの川崎市がやっているアート・フォー・オールという誰もがアートに参画する、表現できる、鑑賞できるみたいなものの、自分なりの実践としてはそのアートロジというのをやっています、公共空間の役所でもやったら面白いんじゃないかなと思って提案させていただきました。

市長：ありがとうございます。

何となく、ここも全くけんかをしないですね。全部がやっぱり、いろんな表現の仕方というふうなのを、この区役所の駅に近い広場の空間で発表できたり受信することもできたりという、そしてみんなが居心地がいいと、誰もがここにいていいんだという桑原さんの話もありましたけれども、そういった場所になればということになると、ほぼ全部包含できてしまうような感じがしますね。ですから、これにまだ足しておきたいよという、ご意見を足しておきたいというふうなのがありましたら、どうぞ、斎藤さん。

斎藤さん：みんなの立ち寄り場所と書いたんですけど、リリオスのスタッフにあそこの広場は何に使ったらいいと思うと聞いたら、意見を幾つか出してきて、11月にフェスティバル・マルシェで新百合ヶ丘駅の近くでモルックを田園調布学園の学生さんにやってもらったんですね。そうしたら、すごく10時から3時までの間だったんですけども、100組ぐらいの方が試してみて、モルックというのはフィンランド生まれのスポーツというほどでもないんですけど、木の棒を立てておいて、そして木の棒を投げるというだけのものなんですけど、通りがかりで皆ができて楽しめる、どんな小さい子からお年寄りまでできるので、すごくいいなと思ったんです。それで、あそこはちょうど平らだし、いいなと思ったのもありますし、あと、それが田園調布学園の学生さんの地域教育実習の一環として、させてもらったんですけども、今、芸術関係と皆さんはおっしゃったんですけども、大学もたくさんありますよね。大学の方たちが何か発表であったりイベントとかをできる場所が1年を通じてあればいいなと思いました。

それで、大学によって何月、何月とかというふうにして、そこでは何か発表する場所として取っておいたらいいんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございました。ちょっとまとめていただいてもいいですか。

斎藤さん：ごめんなさい。あと、夏が暑いので、小さい子向けに小さいプールを置いてほしいという意見もありました。

あとは、ドッグランをやっぱり造ってほしいという意見もありました。

市長：盛りだくさんですね。ありがとうございます。

ソーシャルデザインセンターのお2人に、今の皆さんからの話の感想をいただけますか。

谷平さん：様々な意見があったと思うんですけども、一番近いイベントとしては、先ほどスライドでもあったようにあさお子育てフェスタにあさおSDCとしても参加させていただくんですけども、やっぱり私は、先ほども言わせていただいたんですけども、子供、小学校の先生になりたいというところで、子供の居場所がうまくできたらいいなと思っております。

市長：ありがとうございます。

いずれにしても公共空間というのが、今まで年に数回しか大きなイベントで使われていなかったもの、もう少し柔軟に、だから大きなイベントがあったらでもいいですし、小さなサイズ感でも別にいいじゃないという、もう少し開かれた空間にしていくべきなんじゃないかということで、それはいろんな表現者の方がいっぱいこの麻生区にはいらっしゃるの、それがもう少し自由に使えるようなスペースにしていくこと。それについてのハードの部分というふうなのは少し持ち帰らせていただくというふうなことで、ですから、そういう意味では、こちらも若干のルールというふうなのをつくっていかなくちゃいけないので、それについては、またいろんな方々との意見交換をしながら、フィードバックしながらやっていかないと、勝手にまた行政がつくってしまうと使いづらいものになってしまうということになると思うので、そういうのをコミュニケーションを取りながら、広場についても活用を目指していくと。使い倒されるようにやっていくということだと思います。

やはり、あれですね、Vege & Art Fesもそうですけど、やっぱり大きなイベントなんかをやるとすごい、それなりの体力を物すごく使いますよね。巻き込みながらということなので、何も大きなものをどん、どんとやるということではなく、日常使いできるような空間というようなのをもう少しやっていったらいいんじゃないかなということが、皆さんの大体の総意なんではないかなと。

アートの話にしても表現する場所というのが、いろんな住民の方もそうかもしれないし、大学連携もせっかくだからあるんじゃないかというふうなお話だったというふうに思います。

じゃあ、区長のほうから、今日のいただいた受け止めと、何か決意的なものをしゃべっていただいてもいいですか。

区長：ありがとうございます。

今日のテーマは「区役所を使い倒そう！」というテーマで、本当に皆さんからいろいろなご意見をいただいて、本当にそういう使い倒そうというふうなテーマにしたのを後悔するぐらいいろいろ意見をいただいて、本当に、でも参考になりました。先ほど、市長が言われたとおり、うまくタイムシェアとか、少し譲り合いをするとか、そういうふうに工夫すれば、全体最適ができるんじゃないかなというふうに感じました。

それと、今の市のほうでは区役所改革の基本方針ということで、もともとあるものを何年か1回ローリングをするわけなんですけれども、今、ちょうどその改定作業をしていて、もうそろそろ、これが出ます。今、案があるんですけども、その案の中に、今まで区というのは手続のためだけに来る場所だった。そういうのを変えていこうということで、これから目指すべき区の将来像として、地域における身近な活動、交流の場、地域の居場所としてより多くの市民が利用できるような有効活用に向けた検討を進めると。検討を進めるということになっているんです。まさに、皆さんから今日いただいたご意見というのは、この方向に合っていますので、我々7区の中でも先頭を切ってこれを検討というか、もう実践、さっき市長が言われたとおり走りながらルールを見直していく、変えていく、そういうようなやり方で、こういったことをクリアしながら実現に向けて取り組んでいきたいというふうに思います。ありがとうございました。

<市長総括>

市長：ありがとうございました。

これから、新百合ヶ丘の北口のまちづくりがこれから行われていくので、南口のほうはいろいろ、あそこの通路をうまく使ってとかということをやっていますけれども、今度は北のほうも、アートセンターもありますし、この軸というふうなのをもっともっと生かして、文化軸というのをこっちのほうにもぎゅっと寄せていくというふうな、そのためにはこの区役所の広場というのはとてもいい場所にあるなど。それを本当に、冒頭申し上げたように、市民の共有の財産としてうまく使われてこそ、生きてくるというふうに思っていますので、今までの前例にとらわれず、こういったものに皆さんと一緒にチャレンジしていきたいというふうに思います。

今日、いただいた意見は全てに学びがありましたし、そうか、そういうふうな考え方かというふうなのに、お互い、何か学び合ったんじゃないか、私もそうでありますけれども、いい機会になったと思います。

今日、ご参加いただいた皆さんに心から感謝をして、そして、これで終わりではありませんので、実践する、そして次にまたつなげるということをやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

<閉会>

司会：市長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第79回車座集会を終了いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。